

令和3年度

中学生
の
高校生

税の作品集



所沢税務署管内税務連絡協議会

目次

税に関する高校生の作文

埼玉県税務連絡協議会 会長賞	西武学園文理高一年	石原 怜 奈……………2
税は日本を救う		
埼玉県租税教育推進協議会 会長賞	聖望学園高二年	山口 愛 里……………3
税金の使われ方		
所沢税務署長賞	聖望学園高二年	齊 藤 若 葉……………4
税は国民を支える	秋草学園高一年	齊 藤 綾……………5
税の存在について	聖望学園高二年	志 田 晴 海……………6
世界一幸せな国		
所沢税務署管内税務連絡協議会 会長賞	秋草学園高一年	平 野 愛……………7
税に對しての考え	西武学園文理高一年	佐 藤 和 可……………8
税金の理解の重要さと社会の繋がり		
一般社団法人所沢法人会 会長賞	聖望学園高二年	鈴 木 伊 織 利……………9
『見えない税金』を『見える税金』へ	秋草学園高一年	小 林 美 結……………10
繋ぐ、税のバトン		

中学生の「税についての作文」

埼玉県教育委員会 教育長賞	所沢市立中央中三年	藤 平 心 和……………11
学べる幸せ		
埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞	所沢市立東中三年	田 代 初 夏……………12
税金は生き金	入間市立藤沢中三年	末 盛 碧……………13
私達の命と暮らしを守る税金	入間市立上藤沢中三年	中 田 拓 夢……………14
今、私たちができること	入間市立藤沢中三年	宮 田 海 翔……………15
税金は「支え合い」の象徴	所沢市立中央中三年	橘 川 稟 子……………16
通学路	西武学園文理中一年	浅 川 稟 子……………17
税によって支えられている私たちの生活	所沢市立中央中三年	須 釜 志 歩……………18
消費税二十五%の幸せ		
埼玉県租税教育推進協議会 会長賞	所沢市立山口中三年	相 澤 楓……………19
赤い勇者		
所沢税務署長賞	入間市立上藤沢中三年	岩 崎 隼 悟……………20
東京オリンピック・パラリンピックと税金	入間市立藤沢中三年	積 田 萌 花……………21
税と社会保障		
所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞	入間市立藤沢中三年	茂 野 愛 未……………22
税に支えられる生活と向き合うために	所沢市立中央中三年	渋谷 さち 香……………23
彼らが望むもの		
所沢税務署管内税務連絡協議会 会長賞	飯能市立飯能西中三年	小 松 あかり……………24
消費税とは	所沢市立山口中三年	山 村 健 人……………25
家の前の消防署について		

税は日本を救う

西武学園文理高等学校

一年 石 原 怜 奈

二年前に台風十九号が関東地方を襲った。毎年天気予報で「大型の台風が接近中です。」と報道しつつもそこまで影響がなかったので、今回も甘く考えていた。普段通り過ごし、就寝してしばらくたった朝の二時頃だったか、両親の声で目を覚ました。「早く荷物を上に運んで!」「急がないと水位が上がってきて運べなくなる。」と。私自身初めての経験だった。停電の中、スリッパを履いて急いで荷物を上に上げた。あっという間に日が昇り明るくなったので外を見てみると、辺り一面川のような状況だった。団地に住んでいる住民たちは救助ボートで救助され、いつもは飛行機が飛んでいるはずの空もヘリコプターが旋回していた。数日後には無事に水が引き、私も学校へ行けた。学校では、不要なタオルの寄付を行い、数々の大学が負担して寄付してくれた書道バッグをもらい、家の修理は国のお金から支援金が出たため、少し負担が軽減された。工事が始まって、日々変化してゆく家の中の様子を私は毎日写真に撮って残しておいた。

税金といえど、私には消費税のイメージが強く、実際自身自身が働いて納めていないので今ひとつ意識したことがなかった。しかし、これを機に私は税金について興味を持ち始めた。税金とは、国家または地方公共団体に租税として納め

る金銭であり、治安活動や教育、水道、ガス、電気の公共事業、市政活動などが税金によって賄われている。台風によって我が家は被災者生活再建制度という制度に支援された。被災者生活再建制度とは居住する住宅の被害の程度によって支援金の額が決まるものだ。このありがたい制度によって、我が家は窮地を救われた。

当時義務教育中の私は学校で使用する物品の再配布や給食費、様々な行事に関わる費用が税金によって援助された。この税金は、就学援助制度といい子供たちが楽しく学校生活を送れるように学用品費、給食費、医療費等の一部を援助する制度だ。この制度によって、災害前と変わらぬ学校生活を送ることができ、学生ならではの学びを止めることなく学習することができた。さらに、我が家の一階がすべて床上浸水してしまったため、入浴もできなくなった。そんなときに無料で各施設の浴場を開放し、市民が入浴できるようにするために市から援助された。

普段は平穏な生活を送っているため、税金の使い道を肌で感じる機会があまりなかったが、このような災害を実際に体験すると税金はありがたい存在だということに気が付かされた。いつかは首都直下地震も起こるのではないかと予測されている。災害時代を生き抜くために税金の大切さを私も含めて

「二人でも多くの人々に届きますように…」

税金の使われ方

聖望学園高等学校

二年 山口 愛里

私たちの生活は多くが税金で支えられています。例えば町の暮らしを守る警察や救急車、安心して学べる教育環境、福祉の充実です。私は最近まで税金を意識して生活してきませんでした。また、税金を良いものとは思っていませんでした。何かを買うときに消費税がかかり、お金を多く取られる上、めんどくさいと思ったからです。その当時、税金は消費税しか知りませんでした。しかし、中学校や高校で税金を学んでたくさん種類の税金があることを知りました。それから私は税金をもっと知るべきだと思いました。

所得税や住民税、関税など世の中には様々な税金があります。その税金は国民がより良い生活ができるように使われています。その多くは社会保障関係費です。社会保障費とは老後も安心して暮らせるよう国から受けとる年金や、ケガや病気で病院で手当てをするときに、お金を少し免除してくれる医療関係です。その中で、私は障害者に対する税金に注目しました。

私には障害を持った人が身近にいます。体の障害ではなく、心に障害のある自閉症です。体の障害と違い、周りの人から気づかれにくい上に、対応が大変なので他人の手を借りにくいです。心の障害に関わらず、障害者は全員生活に障害を伴

いながら生きています。このような人たちが少しでもより良い生活ができるよう、税金は使われています。そして、私もっとこのような人たちに税金を使うべきだと思いました。耳が聞こえない人は補聴器が必要です。また、目が見えない人には白杖が必要です。この補聴器や白杖などは決して安いものではありません。これらは、買うときに医療費控除を受けられます。このような制度は障害者にとって少なからず助けになっているはずです。もっとこういった制度が増えれば、生活の助けになると思います。

こうして、税金は様々な人の生活を支えています。若者、高齢者、病気の人など色々な場所で、色々な人の役に立っているのです。最近税率が上がり不満を言う人をたくさん見ます。しかし、納めたお金は他の誰かの助けに、または自分たちの生活の安全に使われています。そのようなことを考えると、少しは税金についての意識が変わってくるのではないのでしょうか。私は税金に助けられている人を何人か見てきました。したがって私は、大人になったら感謝を込めて納税していきたいです。



税は国民を支える

聖望学園高等学校

二年 齊 藤 若 葉

新型コロナウイルスワクチンの予防接種をすべきと考える人はどれぐらいいるのだろうか。新型コロナウイルスワクチンと税金は関係ないと思っている人も多いだろう。このように考えている人がいるとすると私は残念に思う。ニュースなどではあまり報道されていないが、ワクチンは税金により日本に住んでいる人々は接種出来るのだ。税金で接種が出来るということは、お金がない人でも受けることが出来るということだ。

仮に、ワクチンの予防接種が税金では行われず、自費でないと接種出来ないとする。このような条件の場合、どのようなデメリットがあるのか、私は考えてみた。お金に余裕がある人からしてみれば何も影響がない。お金を支払ってワクチン接種をするだけだ。しかし、コロナ禍で失業してしまったりお金に困っている人の立場から考えてみると、自費でないと接種が出来ない事になりワクチンの予防接種を受けることが出来ない。このような例を出したことによって、税金の大切さが良く分かる。税金がなければ、新型コロナウイルスワクチンを接種することが出来ない。言い換えれば、税金という素晴らしい制度があることによって、日本に住んでいる人々は全員ワクチンを接種することが出来るのだ。

だが、「税金は高いから嫌だな。何で税金っていう物があるの。税金なんか払いたくない。」と思ってしまう人も多いだろう。このように考える人が多いのは事実だ。私はとても悲しく思う。税金の大切さを理解していない人々が多いということだ。私は、この税金の作文を通して読んでくれた人が、「確かに。こう考えると税金って大切なんだな。」と改めて思ってくれる人が一人でも増えることを願っている。

新型コロナウイルスが感染拡大し非常事態になって、税金のありがたさをとても痛感した。税金があることにより、日本中の人々が新型コロナウイルスワクチンを接種出来るのだ。全ての人が接種することが出来なくなってしまうたら、差別が生まれる。お金のない人は一生、ワクチンを接種することが出来ないのだ。こんな不平等なことをして許されるのか。もちろん許されない。差別など絶対に起きてはならない。そのために税金があるのだ。税金が日本を平和にしているのだ。

この作文を読み、税金のありがたさ大切さを感じて理解してくれる人が多くなればと思っている。私はもつと沢山の人に税金の良さを伝えられるよう私自身がしっかり税金について勉強しなければならなかった。私はこれからも、税金のありがたさ大切さを意識しながら生活し、学校でも税金の素晴らしさを学んでいきたいと思う。

税の存在について

秋草学園高等学校

一年 齊 綾

私たちの生活には税が関係し、税があることによって様々なサービスが成り立っていると云っても過言ではありません。しかし、そのように口では言っているけれど、本当はよく知っていないと感じるのが現状です。私のような人は少なからず居ると思いますが、まずは身近な税の存在について考えました。

税金と聞くと、約五十種類の税の中で最も聞き馴染みのある消費税が真っ先に思いつきます。消費税は少子高齢化に伴い、税率が変化してかつては三パーセントだった税率が十パーセントにまで増税されました。少子高齢化の対策として今の高校生が大人になって子育てや仕事を始めた時に大きな負担や偏った生活をしないように環境を整えることなどが挙げられると思います。しかし、著しく進行が早く、なおかつコロナ禍で多くの人が命を落としてしまい、現状多くの人が良い環境で暮らせる世の中ではありません。そのためいつ税率が変化してもおかしくない時代でもあると思います。

私が住む東久留米市には、税金で運営されている柳泉園というごみ処理施設があります。ただごみを処理するだけでなく、し尿の処理やごみ処理施設から出た熱を利用した室内プールやテニスコートなどが運営されています。市内の人は

誰もが知っており、通っていた小学校の社会科見学では、施設を見学して処理の様子を目の当たりにしました。私たちが納税しなければこのような施設は運営出来ないし、生活を支える中心となっていないと感じます。

直接自分が関わっていないところでも同じことが言えます。それは、高齢者施設やデイケアサービスです。最近、九十歳の祖母もデイケアサービスの利用を始めました。サービスを動かすために税金が使われ、人の力だけでは実現できないことにも力となって税は働いているのだと私は思います。

冒頭にもあった通り、言葉は耳にしているあまり知っていない、関心が無い人もいるはずです。そのような中で、税と関連づけられる持続可能な開発目標「SDGs」について調べて欲しいと考えます。SDGsは現在団体だけでなく個人で取り組めることにも注目されています。SDGsを学ぶ機会が増え、十七の項目について知ると同時に、税の役割を理解して一人一人が未来を見据え、発信していくことができたらよりよい生活を迎えられるのではないのでしょうか。

また、自治体に寄付が可能なるさと納税制度の活性化によって何か変わることがあると思います。返礼品がもらえて年々利用者も増えて地域の町おこしにも繋がっています。

私は、このご時世で税金に助けられていることが本当に多いなと思ったし、税の存在は大きいことを知りました。目に見えているものだけでなく見えていないものからにも沢山の支援を受けているということを改めて感じながら生きていきたいと思っています。

世界一幸せな国

聖望学園高等学校

二年 志 田 晴 海

私は、「税金」と聞くと中学校のときの公民の授業を思い出します。

「世界一幸せだと言われている国はどこだと思いますか。」当時の私は税金のことを全然知らなかったので、税金に対してお金を国に持つていかれるという悪いイメージを抱いていました。だから、まさか税金の高い国で生活するのが幸せだとは思っていませんでした。

世界一幸せだと言われる、フィンランドでは、消費税が二十四パーセント、住民税が十九パーセントと、日本に比べて税金がとても高いです。しかし税収が大きい分、教育や福祉の制度は充実しています。例えば、小学校から大学までの学費が無料で、医療費も安く、老後の年金の心配も要らないそうです。私は先生にこれを聞いたとき、すごいと思いました。日本ではありえないからです。私は、フィンランドの国民は安定した暮らしを国に保障されているので幸福度が高いのだと思いました。

一方、日本人の多くは税金が上がることを嫌がります。税金が上がっても、それまでとは違う、新しい効果は見られず、逆に生活が苦しくなるからです。日本では税金が安いので、色々なサービスを無料にしたり、国民一人一人への手厚いサ

ポートをすることは難しいと思います。だから今後、今よりもっとより良い社会にするにはどうしても税金を上げる必要が出てくると思います。

しかし現実的に見て、今の日本では、急に税金を上げてフィンランドのような制度を取り入れることはできません。そこで、限られた税収の中でどれだけ国民の安定した生活を守れるかが重要になってきます。私は、日本では急速な少子化が問題となっているため、出産費や子供の養育費を税金で賄うことで出生率が上がると考えました。また、国民が増えるので、より多くの税収を得て今の日本の社会を変えることに繋がると思います。

このように、国民一人一人が税金についてもっと関心や意見を持って、それらを政治に反映していけば、国の税制度を大きく変えることができます。私は、日本に住んでいる人みな、幸せだと言える国になって欲しいです。



税に対するの考え

秋草学園高等学校

一年 平 野

愛

若者は税に対しての知識が浅く、関心も少ない、と私は思う。そして税に対して良い印象を持っている若者も、あまりいないのではないか。

私は、消費税が上がるというニュースを知ったとき、最悪!!という若者の意見をたくさん耳にし、自分も同じ気持ちを抱いた。それは正直当たり前だ。自分が払った消費税が何のために、誰のために使われているのかを具体的に知らないからだ。それにより、不安や不快な気持ちを抱いてしまう。

このことから、私は学生時代の内にもっと税について勉強したり、知ることができる機会を増やしてほしいと思う。高校生にとって身近なものは消費税だけで、大人になってしまえば所得税、住民税、法人税などたくさんの税金を払わなければならないことになる。それを大人になってから知るのは、難しく大変だと思う。しかし、学生の間に全部では無くとも、理解しているだけで大人になってから慌てることも無くなり、学生時代の勉強が大人になって役立つと思う。

なぜこんなにも税について知りたいかと言うと、この国は税金で成り立っているものが多いからだ。道路や水道の工事、公園の整備や教育現場に必要な教科書類。挙げればきりが無い程、税金は様々なこと、物に使われている。自分が払った

税金でこのようなことができているんだ、と知ることができれば、税に対してのイメージは良くなり、あれは税金で成り立っているのかな?と関心が上がると思う。なんで私たちが払ったお金で楽しんでいる人がいるわけ?と思ってしまう若者にとつて、このことはかなり大きな影響を与えられると思う。実際に学校に税理士の方や、区役所の方などをお呼びして、講演会を開くということが、より身近に税への理解を深めることができると思う。

学校で習う因数分解よりも、大人になった時に必要なのが、税についての勉強だと私は考える。自分自身も周りの子や友達も、税に対して関心を持てるような社会になってほしいと願う。



税金の理解の重要さと社会の繋がり

西武学園文理高等学校

一年 佐藤 和可

私たち国民が安心・安全に生活できている理由は「税金」のおかげです。私たちはさまざまな税金を納めています。特にすべての国民に身近な税金といえば「消費税」でしょう。しかし、「税金」は何にどのくらい使用されているのかを「理解している人」と「していない人」がいます。そして、「理解していない人」がSNSなどで「税金を払う必要はない。」と発信している現状を知っているでしょうか。

私は税金を支払うことは必要だと思います。なぜなら、すべての国民の生活を豊かにしてくれるものであり、自力で生活することができない人々を自立させて一人で生活できるように手助けしてくれるものだからです。私が幼い頃、税金を払う意味を知らずに、なぜお金を多く払う必要があるのかかさっぱり分かりませんでした。しかし、小学4年生のときに市役所の方々が学校にいらっしゃって一から説明してくれました。そのときに、税金は道路の工事や公立学校の設置などの私たちの生活を豊かにしてくれるものだとなりましたが、公共物だけに税金を利用しているのではないと中学生の頃に社会の授業で分かりました。そのときは大半のことを分かったつもりでしたが、まだまだ知らないことをついこの間感じたのです。

今年の七月、私が母と一緒に「こんな夜更けにバナナかよ」の作者の渡辺一史さんの講演に参加しました。そこで日本の障害者への支援の現状を知りました。それは、「障害福祉サービスにかかるお金は、国の一般会計の歳出総額の1%台にすぎない。」ということです。それを知らない国民が多いからインターネット上に「なんで税金を重くしてまで、障害者を助けなくてはいけないのですか？」などつぶやいているのだと感じました。私もこのことを知るまで障害者には多くの税金が使われているのだと思っていました。しかし、正しい情報を知り、今まで思っていたことが覆されました。ところが、そのことを知らずに思い込みで行動し、障害者を邪魔者扱いすることはどうかと思えます。その行動は多様性を認める社会・様々な人と共存する社会に繋がるのでしょうか。

この経験から、もっと私たち日本国民は税金の使い道などを知るべきだと感じました。これからは、もっと社会の仕組みについて知り、しっかりと自立した社会人になろうと思います。



『見えない税金』を『見える税金』へ

聖望学園高等学校

二年 鈴木 伊織利

私たち高校生が税金について考えたとき、一番に思い浮かぶのは消費税だと思います。これは恐らく、普段生活していて、最も身近な税金が消費税だからなのだと思います。現在の国の一般会計歳入額を見ると、消費税は全体の凡そ二割である二十兆二千八百四十億円も占めています。つまり、私たちが毎日のように支払う税金は、国を支える重要な財源といえるでしょう。

しかし、消費税をはじめとする様々な税金は一体何に使われているのだろうか。このように問われたとき、すぐさま答えられる国民は多くないと言えるでしょう。実際、家族や友人に質問したところ、すぐ答えられなかったり、一通りしか答えられませんでした。つまり、『見えない税金』と化してしまっています。これでは何故私たちが税金を支払っているのかと疑問視することとなります。脱税等の税金支払いを逃れる人々もこの疑問視が根源にあるのではないのでしょうか。

では、どうすれば税金が『見える』ようになるのか。私は、まず知ることが一つの解決策なのではないかと考えます。

主な税金の使い道は、身近なものは図書館や病院、私たちの学びの場である学校等の公共施設、更に大規模なものは主に自衛隊基地などの国の防衛費、道路や橋建設等の公共事業

などが挙げられます。また、新型コロナウイルス対策として国家予算の補正予算として七十三兆円もの税金が使われることとなりました。今挙げた例は全て、私たちが安心・安全に暮らすために必要です。整った環境で無償で利用できる教科書のある小・中学校や、予防接種や薬の処方にかかる費用が一部免除される病院、その道中にも警察や消防、舗装された道路等、税金はこの国の至る所で活用されています。私たちの毎日の健康な営みは税金のおかげなのです。

このように、私たちの支払う税金の使われ方について知るだけで、今まで『見えなかった税金』が『見える税金』へと変わります。私自身今回の学びを通して、「こんなにも私の生活を税金が支えているのか」と知ることができました。税金への新たな知識を蓄え、今後の使い道の発展を思ったとき、普段の何気ない買い物の支払いで、ほんの少し支払いが楽しくなり、私たちはマスクの下ではほえむことができるのかもしれません。



繋ぐ、税のバトン

秋草学園高等学校

一年 小林 美 結

私たち国民には、納税の義務がある。そして税金は、私たちの生活を支え、守り、未来へと繋げている。そんな、税による「繋がり」はどのようなもののだろうか。今日はそれを考えていこうと思う。

私たちが納めている税金は、地方交付税交付金、社会保障、文教及び科学振興など、様々なことのために使われている。私は高校生になり、今まで以上に税金が身近な存在になった。病院で医療費が必要になったり、教科書を買ったりしたのが良い例だ。

私は、小さな頃から最近まで、納税が何なのかを全く知らなかった。それ以前に、「どうして税金を払う必要があるのだろうか。」とさえ考えていた。しかし、税金の使い道を知っていくうちに、私達の暮らす日本にとって、税金はなくてはならないものだと感じた。もし日本から税金がなくなったらどうなるだろう。気になって、少し調べてみた。まず、公共サービスがなくなる。たとえば、病気や怪我で救急車を呼んだとしよう。救急車に乗るのが有料になり、病院での治療費もとても高額になってしまう。また、教育に関わることも、高額なお金を必要とすることになる。

このように、税金というのは私達の生活に不可欠なもので

あり、暮らしをより豊かに、安全にするための重要な役割を果たしている。私は税金のこの役割を、「バトン」のようだと思った。日本の未来に、豊かな暮らしを繋いでいく。それこそが、これからも日本が豊かでよりよい国として続いていくことに必要だと私は考える。日本の未来を繋ぐために、私達高校生やその下の世代はもっと税金や納税について詳しく学ぶ必要があるだろう。今は私自身、税金や納税について少しづつしか学べていないが、自分の将来のためにも、様々な視点から学んでいくことが大切だと思う。

今の日本は、新型コロナウイルスの流行により、医療崩壊の危機が迫っている。それでも、医療に関するPCR検査、入院、治療や生活が苦しくなった世帯や飲食店などの給付金に税金が使われて日本を支えてくれているおかげで、人々の暮らしは助けられている。

日本では、納税の義務が定められており、国民全員が様々な場面で税金を納めている。それを嫌がることなく、しっかりと行えることが、日本の未来へと繋がると私は信じている。



学べる幸せ

所沢市立中央中学校

三年 藤 平 心 和

ひいおばあちゃんのことを思い出した。大正生まれで、生きていれば百歳近くになる。

元気だった頃、施設に会いに行くと、必ずお小遣いと赤い缶に入ったチョコレートをくれて、その後、施設での生活や、昔の話をたくさんしてくれた。いつも同じ話ではなく、いろいろな時代のいろいろなエピソードを、聞いている私たちが思い描けるように生き生きと語った。

私は、「何て物知りで、賢いひいおばあちゃんなんだろう」と、いつも感心していた。

そんなひいおばあちゃんが、学校教育をほとんど受けておらず、小学校さえ満足に通えなかったと知り、本当に驚いた。

ひいおばあちゃんは、好奇心旺盛で、チャレンジ精神が豊か、そして頭が良く、とにかく勉強が大好きだった。しかし、当時は、義務教育制度はあったものの、授業料や教科書代、施設維持費は国民が負担するものだった。そのため、ひいおばあちゃんを含め、一般庶民の子どもたちは、十分に学校教育を受けられないことが珍しくなかった。

そんな中、ひいおばあちゃんは、家事の合間をぬって、学校に向かい、窓の外から熱心に授業を聞いていた。当然、教科書もノートも持っていないため、ひたすら地面の土に書き、

内容を暗記するという方法で、知識を増やしていったのだ。

大人になり、比較的自由に学べる時代になった時、ひいおばあちゃんは寝る間も惜しんで本を読み、学ぶことを楽しんでた。そしてクイズ大会で優勝したり、短歌を教える先生になったりしていた。年老いて施設で生活している時も、いつもノートをそばに置き、記憶したいこと、感じたことを書きとめていた。最後まで学びを大切にし、学べることへの感謝を忘れなかった。

教育に多くの費用がかかるのは、昔も今も同じだ。しかし、現代ではその大部分が税金でまかなわれている。学校で使う教科書や机、いすの購入、校舎の建築や修理費に、年間一千億円を優に超える税金が使われているのだ。

そのおかげで私たちは、教育を無償で受けカラルフルで丈夫な教科書が提供されている。そして、エアコンの効いた快適な部屋で、多くの仲間と共に教育を受けることができている。

それなのに私は、時々、いや、かなりの頻度で、「面倒だから学校に行きたくない。」とか、「こんなことを覚えて何の役に立つのか。」などと不満を吐き出し、丈夫なはずの教科書があつという間にボロボロになるような乱暴な扱いをしていた。今、そのことをとても恥ずかしく感じる。

今回、教育と税について考え、今自分が得ている恩恵を当たり前と見なさず、感謝し、一生懸命学び続けていこうと心を新たにされた。

税金は生き金

所沢市立東中学校

三年 田代 初夏

私の自宅の前には、小さな街灯がある。ある日、その街灯の光が急に明るくなったことに気づいた。私は、街灯の暗さを気にした母が替えたのだと思って聞いたら、それは市がお金を出して替えてくれたのだという。同時に母からは、

「市がお金を出してくれたけれども、そのお金は、もともととは、お父さんのように働いている大人が納めた『税金』なのよ」という事実も教えられた。私が「税金」という言葉を知ったのは、そのときが初めてだと思う。

よく考えたら、税金はすごいしくみだ。街灯が暗くなったから替えてくれるし、ゴミが溜まったら集めてくれる。読みたかった本を図書館に集めてくれたり、学校の教科書を買ってくれたりするのも、税金が使われているらしい。大人が一生懸命働いて納めてくれた税金が、私たちの暮らしを良くするために使われているのだ。税金は、みんなのために使われる「思いやり」とか「助け合い」のお金なのだと思う。

税金には、私たちの生活に密着した消費税や自動車税、さらには贈与税、固定資産税、住民税などたくさん種類があるが、そのすべてが、暮らしのいろいろな場面で使われているらしい。今の私が快適な生活を送れているのも、税金があってこそだと感じた。

父などが働いて納めたお金が、巡り巡って暮らしを良くするために使われていると思うと、すごいしくみだと思う。

気になることがある。ニュースで「税金の無駄遣い」といった言葉をよく聞く。税金は働いている人から集めたものだから、無駄遣いされたことがあるなら、悲しい気持ちになる。

私は幼少の頃、母から「お金はよく考えて大切に使うように」と教えられた。お金で意味のある使い方は「生き金」、無駄な使い方は「死に金」という話を聞いた。

税金は、すべてが生き金であるべきだ。大切に使われるべきだし、そのために使い道を決める政治家の人には頑張ってもらいたい。そして、その政治家を選ぶのは私たち国民だ。だから、私たち国民も慎重に選ばなければならない。その点も巡り巡っているのだ。

私たち国民は、もともとずっと税金がどこに使われているかを意識して、本当に暮らしを良くするために使われているかを知る必要がある。そして、私が今のように学べたり夢を追いかけたりできるのも、生き金である税金のおかげなのだと、もともと感謝すべきだと思った。

税金、ありがとうございます。いつか、私が働いて税金をしっかりと納めようと思う。税金を使うばかりの私から、納める私へ。

巡り巡って、きちんと納められる私になるべく、今は努力を続けよう。この生き金のしくみを未来へと伝えていくために。

私達の命と暮らしを守る税金

入間市立藤沢中学校

三年 末 盛

碧

大好きな祖父母に会えなくなつて、もう一年半以上になる。新型コロナウイルスが世界中でもういを奮い、私達は今もまだその中にいる。

一年半前、休校が決まり、私達の生活は一変した。得体の知れないウイルスに、日本中が戸惑い、マスクやトイレットペーパー、消毒液がスーパーやドラッグストアから無くなり、手に入らなくなった。早朝からマスクを購入するために行列が出来ている事がニュースにもなったりした。これからどうなってしまうのだろう、みんなが不安に思っていたその時、国から一人一枚ずつ布マスクが支給されたり、一人一律十萬円の給付金が支給されたりと、私達の生命と暮らしを守るために、スピード感のある政策が次々と実行された。その財源は、税金である。その税金がどのように、何に使われていくかは、政治が大きく関わっていることをコロナを通して実感することが出来た。

令和三年度の国の支出を見ると、新型コロナウイルス対策予備費として五兆円、支出全体の四・七パーセントがコロナ対策に当てられる。治療薬やワクチンの研究開発、ワクチン予防接種等に私達の税金が使われている。ワクチンを打てるのは当たり前だと思っていた私だったが、無料で打てるようになった

のも税金のおかげだと母から聞き、改めて安心して暮らすことが出来る税金の必要性と有り難みを感じることが出来た。夏休みに入つて、私の分も含めて家族全員の新型コロナウイルスの接種券が届いた。一年半以上この病氣と闘い続け、今年八月には全国で二万人を超える感染者が出た。一刻も早いワクチン接種が望まれる。一人でも多くの国民がワクチン接種をすることで、感染者、重症者も減っていき、大好きな祖父母に会うことも叶う日がくるに違いない。

私は今まで、「税金」というと消費税など、とられるものというマイナスのイメージが大きかったが、皮肉にも生命と暮らしをおびやかしたコロナウイルスを通して、私は税金の大切さを学ぶことが出来た。私がい物をした時に払った消費税が、コロナ禍を生きる私達の生命と暮らしを守る大切な役割を果たしていることを知ることが出来た。

コロナと共に生きる生活はしばらく続きそうだが、だからこそ私達の税金が生命と暮らしを守るために適切に使われることを強く願う。私のおこづかいで出来る、わずかな社会貢献かもしれないが、今を生きる人々、これからを生きる未来の役に立つと思うと、少し嬉しくなった。



今、私たちができること

入間市立上藤沢中学校

三年 中 田 拓 夢

私たちの生活には病院で治療をした時の治療費の補助や事件や事故が起きた時にすぐに駆けつけてくれる消防車、救急車、パトカーの設備費、最近だと新型コロナウイルス感染拡大防止のための無料のマスク配布やワクチン接種の費用など、至るところに税金が使われている。そんな税金によって成り立っている社会の中で、私は国の支出と収入に少し危ない面があるのではないかと考える。

まず私が思う支出の面での危険なところは年金を受給したり、生活保護を受ける方への費用などを含めた社会保障費と国の借金を返すための国債費で支出全体の五割以上を占めてしまっているということだ。確かに社会保障は大切なことだと思うし、借金があるならしっかりと返さなければいけないと思う。だが、それだけに偏りすぎてしまうのはあまり良くないと思う。最近だと新型コロナウイルスの感染が拡大しているのがアメリカ合衆国のように二度、三度にわたって国民全員に給付金を給付したり、飲食店などに休業や時短の要請をする時の給付金をもっと高額にした方が国民全体の生活が少しは楽になると思うし、北朝鮮が弾道ミサイルを試験発射していることなどで国際的な緊張が高まっているため軍備にももっとお金を使った方が良いのではないかと思う。

次に私が思う収入の面での危険なところは収入の約四割を公債金という、国が色々な人々から国債という借金をして得ているお金が占めているということだ。この公債金による借金は、国内の人々が稼いだ金額の合計を表すGDPと比べると諸外国の中でも多いことが分かる。財務省によると令和元年度時点でイギリスが約九十パーセント、アメリカ合衆国が約百パーセントに対し日本は約二百四十パーセントと世界の諸外国と比べると日本がいかに負担の大きい国債を背負っているのかということが分かる。ではこの問題はどうすれば良いのか。今すぐに答えを出すのは難しいと思う。最近の日本は新型コロナウイルス感染拡大の影響で支出がとも増えていて公債金が少しでも少なくなれば途端に支出と収入のバランスが崩れ、経済崩壊につながりかねない状況にある。

そのような非常に厳しい世の中で私たちには何ができるのか。それは「学んで考える」ということだと思う。私たち中学生はどうしても自分の意見を発信するということもまだもっていくのは難しい。しかし学ぶ、考えるということではできる。最近は財務省や国税庁のホームページなどの税について学ぶためのツールが非常に多く存在している。学んだら考えることができ、考えることは将来自分の意見を発信することにつながる。将来の日本を生きていき、担っていくかなければならない私たちにとって今のうちから税やこの国の経済について「学んで考える」ということは必須だと思う。

税金は「支え合い」の象徴

入間市立藤沢中学校

三年 宮 田 海 翔

私は身体が弱く、幼少期はよく病院へ通っていた。今はだいぶ強くなり、病院へ行くことも少なくなった。しかし今でも肌は弱く寒暖差や刺激などですぐに蕁麻疹が出てしまう。それを防ぐために毎月薬をもらいに皮膚科へ通っている。

しかしある時周りの大人は薬代を支払っているのに、自分は支払っていないことに気づいた。私は母になぜ払っていないかたずねると、母はこう答えた。

「この薬のお金は税金から支払われているから税金を納めているたくさんの方の力を借りて作られているの。」

この言葉の意味を当時の自分はまだ理解することができなかった。しかしこの夏、税について学ぶ機会ができ、この話を思い出すことができた。そしてあの時は分からなかった話も分かり、はっとした。普段何気なく納めている税金に自分も助けられていたのだ。そして税金がとても身近なものに感じた。

税金と聞くとお金を取られてしまう。というイメージを抱く人も多いと思う。たしかにお金は取られてしまう。しかし税金が無ければ警察や消防、救急などの公共サービスが機能しなくなる。今世界中で混乱を引き起こしている新型コロナウイルスに伴う一回目の緊急事態宣言時に配布された給付金

も得ることはできなかった。税金は社会を巡り私たちの生活を支えている。いわば水のようなものだろう。そしてその税金は時に救ってくれるのだ。実際私は毎月五千円はする薬代を支払わずに済んでいる。この事は私の親を経済的にも精神的にも救っている。このことを機に私は税金に対する思いが変化した。今まで私はなぜ税金を納めなければいけないのかも分からず消費税が10%に変化した時も不満しかなかった。しかし今では税金の使い道や税金を納めることの大切さを学び、税金を納めているからこそ今の生活があると実感した。

人生百年時代といわれる今の世の中でいろいろなことを体験するだろう。そして生きていく中でたくさんの方の税金を納めるだろう。しかしもしもの時税金は必要不可欠だ。

私は税金こそ「支え合い」の象徴だと考える。そしてその「支え合い」の一部を使い、私たちは学校へ行き、授業を受け勉強することが出来る。そして「支え合い」に助けられ救われるだろう。そして次は自分が誰かを救う番だ。

私はまだ誰かを救えるほどの力はない。ただ「今の自分ができる最大限の支え合い」をしていきたい。そして大人になった時に税金を納めることで困っている誰かを救えるような人になりたい。

通学路

所沢市立中央中学校

三年 橘

桜

「行ってきます。」家を出て毎朝私は学校へ通う。幾つかの横断歩道を渡って、舗装された道をまっすぐ進むと学校がすぐそこにある。当たり前前の日常だ。

ある日、ふと考えた。それは私がまだ小学生だった頃、母から言われた言葉を思い出したのだ。

「今、学校に行けて勉強できる事は当たり前前の事ではないんだよ。」

その言葉の意味は解かっても深く考える事はなかった。

あれから何年か経ち、私は今、受験生として勉強している。様々な事を学ぶうちに、世界では勉強をしたいと思っても出来ない人が多くいるという事を知った。

ある国の子供たちは、学校に通うために片道何時間もかけて、想像を絶する道のりを通っているのだ。その親は皆「どうか学校まで無事であれ。」と祈るそうだ。

幼い子供たちが通学路の崖から落ちて命を落としてしまう事があるからだ。

今の私と重ねてみると、私が学校へ通う道のりは、道路が舗装され車と人の安全のために信号がある。人と人が正しくルールを守る社会の中ではこれほど安全な事はないと思う。

街を見回すと、私たちの生活を便利にしてくれるものがある。とても多い事に気づく。私の暮らす街にも図書館があり、知りたいと思う事があれば、沢山の知識を与えてくれる。また、学校で学ぶための教科書は無償で支給される。その恩恵を受けて私はノートやペンを買う事ができる。世界では教科書だけでなく、ノートやペンも手にする事ができない人が沢山いる。そう思うと、全てが当たり前前ではないのだと、母の言葉の意味を深く感じた瞬間だった。

私は税の仕組みや使い道を知るうちに、私たちが社会の中で生きていく為に、税はとても必要なものであると感じた。安全に暮らして、教育を受けて学び、より良い社会を作り、次の世代に引き継ぐ。

税は今を生きる全ての人に、そしてこれから生きていく未来の為に大切なものであるという事、そして全ての恩恵に感謝をしながら私は通学路のアスファルトを踏みしめた。



税によって支えられている私たちの生活

西武学園文理中学校

一年 浅川 稟子

私は夏休みの社会科の宿題のテーマを、「地域の街路樹調査」として、私の住んでいる町内にどのくらいの街路樹があるのか調べました。その時にお母さんが

「街路樹を植えたり、形を整えたりするのも税金が使われているんだよ。」

と教えてくれてとても驚きました。調べてみると、私の住んでいる町内は二百六十五本もの街路樹が植えられていることがわかりました。また、この調査には植え込みや公園内の木々を数えなかったもので、二百六十五本より多くの木があることがわかります。その木々の管理を全て税金で行っていると考えると、ものすごくお金がかかっていることを感じました。同時に私は、税金の必要性を深く感じるようになりました。

私たちが住んでいる地域は、たくさん公園やきちんと整備がされているテニスコートやサッカーコートがあり、春はサクラ、ハナミズキ、サツキ、夏はサルスベリ、秋にはモミジバフウ、イチヨウなどの紅葉と、季節によって四季の移ろいを感じられるとても緑豊かな場所です。そんな私たちの地域の道の整備や公園の運営、街路樹の管理、街路灯を長持ちして光の明るいLEDにするなど、健康で安全・安心に暮らせる街づくり、税金によって支えられていました。

「税金」と言う単語を辞書で調べてみると、国民や法人が、国や地方公共団体に国民の義務として納めるお金のことを指しており、そのお金は国や地方公共団体によって、社会保障や警察、消防などの公共サービスや公共事業などに使われているということがわかりました。

「税金」と言う言葉を辞書の意味だけで考えると「どこで使われているのか?」「どんな税金があるのか?」曖昧だったことも、身近なものが税金によって支えられていると知ると、とても税金との距離が縮まったような気がします。

この機会を通じて、私は身近なものであるということ、そして様々な使い方があることを学びました。

私は、自分の住むこの緑豊かな環境がいつまでも残るために、街路樹の管理をはじめとする住宅地の環境整備に税金を使い続けて欲しいと改めて思いました。



消費税二十五%の幸せ

所沢市立中央中学校

三年 須 釜 志 歩

税金は、主に医療、年金、介護などの社会保障費として使われている。そんな中、日本の消費税は、二〇一九年十月に八%から十%に増税された。私は正直、十%は高すぎると思っていた。日本はもともと消費税がなかったし、現在でもない国はあるのだろうか、逆に日本よりも高い国はあるのだろうかと考えようになった。よって私は、世界の税金について調べることにした。

インターネットで調べてみると、一際目立つサイトを見つけた。そこには、『消費税二十五%で世界一幸せなデンマークの暮らし』と書かれていた。これは、ケンジ・ステファン・スズキさんの著書で、それが要約されているサイトだった。私はこれを見た瞬間、どうして消費税が高いのに国民は幸せなのか、と不思議に感じた。なので、これを読んでわかったことや考えたことを三つ紹介していきたいと思う。

一つ目は、医療費が完全に無料だということ。たとえ億単位の治療費がかかっても請求されないそう。日本にも似たような制度はあるが、中学生までなので、これを聞いて驚いた。もし大きな怪我や病気になってしまっても、億単位の治療費を払うのは厳しい。でも、デンマークなら安心して回復に専念できると思った。

二つ目は、学校の授業費が無料だということ。デンマークでは、小学校から大学まで全て無料で行われているそう。日本では、中学校までが義務教育だが、デンマークの学生はお金のことを心配せず、誰もが大学まで進学し、学ぶことができる。また、受験や偏差値がなく、高校や大学のランクなくともない。偏差値ではなく、将来どのような職業に就きたいかで学校を選ぶことができるため、高校以上になると学校は、資格を得る場となり、それが就職に直結するのだ。私は今年受験生で、この話を見て羨ましいと感じた。

三つ目は、政治制度についてで、政治家の給料は低く、地方議会議員はボランティアなのだ。デンマークの人口は、兵庫県程度で、少所帯だからこそ国と国民との一体感が生まれやすいのだと感じた。

このように、世界に視野を広げてみると、日本では考えられないような税金の制度があることに気づかされた。初めは、消費税十%は高いと思っていたけれど、これを0%にしてしまうと、個人の負担が大きくなってしまったと思った。なので、物を買うときの十%は大切なものだと自覚し、消費税の十%で社会の役に立っていることを誇らしく感じるようになった。



赤い勇者

所沢市立山口中学校

三年 相澤

楓

なぜ税金はあるのだろうか。あのときの私は、まだそれを知らなかった。

私は骨折をしたことがある。ある暑い夏の日のことだった。小学二年生の私はいつものように友人と遊んでいた。たわいもない会話をして笑い合っていた。あの事故が起こるまでは。「ドンッ」と突如響いた大きな重低音。全身に激痛が走った。痛い、痛い、私は叫んだ。それと同時に遠くから甲高い音が聞こえてきた。私は救急車に乗った。救急車の中で腕き苦しんだ。気がつくと私は病院にいた。

医者に骨折だと言われた。松葉杖や薬などを貰い母が運転する車に乗った。帰宅途中、無言の私に母は優しく声をかけてくれた。私は無言のままだったが、それでも声をかけ続けてくれた。そのあたたかく、優しい言葉は私の心にとっても響いた。

しばらくして、私の骨折は治った。そして、いつも通りの日常を過ごしていた。そんなある日のことだった。中学生になった私はニュースを観ていて消費税が八パーセントから十パーセントになることを知った。いやだなあ、と呟く私に母は税金が私たちの暮らしを支えてくれているということを教えてくれた。何に税金が使われているのか気になった私は調

べてみることにした。

調べてみて、教育や介護、子育てなどに使われていることが分かった。その中で医療にも使われているということを知った。また救急車もだった。そして私はあの日のことを思い出していた。あの事故が起こった日のことを。私は事故にあつて救急車に乗り医者に手当てをしてもらった。でももし税金が無かったら。事故にあつても救急車に乗ることができず、もっと大きなけがを負っていたかもしれない。あのときの私は事故にあつたら救急車がくることを普通のことだと思っていた。だが、今になって分かった。あれらには税金が使われているということ。そして、税金が私を救ったということ。

私は母に言われるまで税について考えたことがなかった。だが、調べてみて税金は私たちが生活をしていく上でとても重要なものだと分かった。私はまだ、税金を払うことはほとんどないが、教科書や学校の机やいすなどは税金が使われているのでそれらを大切に扱うなどして税について意識しながら生活していきたい。



東京オリンピック・パラリンピックと税金

入間市立上藤沢中学校

三年 岩 崎 隼 悟

2013年に日本中は歓喜で湧いた。東京での五輪開催が決まったのだ。しかし、2020年初め、世界中で「新型コロナウイルス」が猛威を振るった。ウイルスの影響によって五輪は一年延期し、無観客での開催となり、まさに異例の五輪になってしまった。そんな五輪の色々なニュースを見る中で、僕はある記事が目にとまった。

「東京五輪・パラ1.6兆円で何ができる。」

これを見たときに、僕は初めて五輪が税金によって作られていることを知った。東京五輪はもとも7000億円だった予算が、今では1.6兆円や3兆円、4兆円とも言われている。五輪開催に反対では無いが、そんな多額の税金について、その記事に書かれていたものを基に税金について考えたことを書こうと思う。

①全国の小中学校の給食を無料にできる

②修学支援制度の拡充

まずは①について。今の日本の給食費は、年間約5～6万円（1家庭の負担額）。これを1.6兆円の税金で補うと、21ヶ月分の給食を無償で提供できる。これがどういうことかというと、子供の貧困が深刻化する中で、給食だけが一日のまともな食事になっている子の家庭での食事を少し救うこと

ができるのだ。子供の成長時期は食事がとても重要とされている中で、給食の無償化は国も課題にしている為、優先的に解決してほしいと感じた。

次に②について。この制度に対して、今は4804億円が充てられている。それが1.6兆円ともなると、対象を拡大し、倍以上に手厚くすることができると、これは経済的に困難だが修学に意欲のある学生にとってありがたいもので、日本の未来を担う若者の成長へとつながる為大切だと思う。

五輪に1.6兆円。こんなところから税金について考えるなんて思ってもいなかった。スポーツの祭典である五輪の開催に反対している人々の理由が経済的弱者の立場を知ることによって今なら分かる気がした。それが分かると、1.6兆円は多いと感じた。

税金。これは国民の生活をより豊かにし、国民を助け、国民を支える為のものだと思う。コロナ禍で救いを求める人が増える中、国が正しい方向に税金を使ってくれるなら、税金はとても大切なものだと感じる。



税と社会保障

入間市立藤沢中学校

三年 積 田 萌 花

私は小学生の頃は何故、税があるのだろうかと思っていました。特に消費税はなければ良いと思っていました。

しかし、ある日、テレビでデンマークという国での暮らしをテーマにした番組を見ました。その国では消費税が約二十五パーセントほどで、とても高いなと感じました。しかし、デンマークの国民の幸福度は世界でも非常に高いと言われています。「何故?」と思った時に、その番組がデンマークの社会保障について紹介しました。大学、高等学校などの学費の免除、医療費、介護サービスは無料、出産・育児休暇を五十六週間取っても給料がでたり、結婚式・葬式の費用も無料など、高い税金をとられても国民は納得し、安心して暮らせる社会保障があります。

日本には沢山の社会問題があります。例えば、育児環境が良くないことなどが原因の少子化、高齢者の年金問題、それによる高齢者が医療費や介護費が払えず、健康に生きていくことが難しくなっていること、そして、このコロナ禍で働き口がなくなり、大学費を払えず、退学することになった多くの大学生達などの問題があります。

そして私はどうしたら、日本人はデンマーク人のように幸せになれるか考えました。やはり、税が深く関わっていると

思います。ただ、デンマークのような高い税では、生活が苦しくなってしまう人もいるのではないかと思います。私は、裕福な人と貧しい人との格差がなくなれば良いなと思っています。だから税を生きるのに不必要な商品に重くかけたり、裕福な人たちから今よりも重い税をかけたりにして、その格差を縮め、格差社会から脱することができのではないかと思います。私は生きるのに必要な商品以外に、デンマークのように重い消費税をかけ、社会保障を充実させ、今の日本の社会問題が一つでも減れば良いなと思います。健康や老後への安心感、学校へ通える喜び、安心して落ち着ける育児、それが国民の幸せだと思います。だから、日本はデンマークのようにはかなくても、国民一人一人が税を大切にしていかなければならないと思いました。そして税の国民の反感をかうような支出はやめるべきです。

このように、私は国民の幸福度は税が関わっていると信じています。だから私たちは、税に関心を持ち、税による社会保障に感謝しなければなりません。



税に支えられる生活と向き合うために

入間市立藤沢中学校

三年 茂 野 愛 未

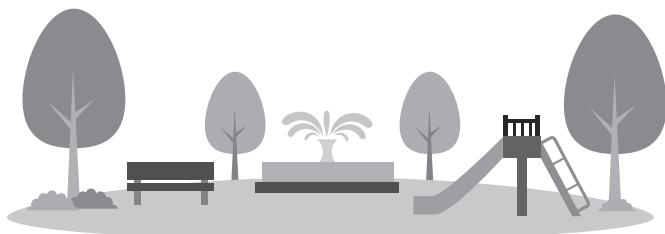
少し前に親の給料明細書を見たことがある。控除の部分に「所得税」「住民税」という項目があり、支給金額から数パーセント引かれていたことを覚えている。大きく分けて、国に納める税を「国税」、地方公共団体に納める税を「地方税」と納めるところによりいろいろ分類されている。また、働いている人は所得に対して納める「所得税」、会社の所得に対して納める「法人税」、お酒を飲む人やたばこを吸う人等は「酒税」や「たばこ税」「たばこ特別税」、自動車を使う人には「自動車税」とありとあらゆる我々の生活に税はつきまとう。

中でも毎日の生活に身近な「税」は、「消費税」である。学用品を購入するにも「消費税」、食料品を購入するのにも「消費税」がかかる。一見、納めてばかりいて損しているようにも思えるが、我々はこの「税」というものにいろいろと助けてもらっている。少子高齢化社会において、社会保障はなくてはならないものであり、所得のない高齢者には「年金」、生活に介護を要する人に対しての「介護費」、病院で治療を受けるには「医療費」そして我々子どもに対しての支援の費用など、様々なところで税が活用されている。

私は、約七年前に「コレスチリン肉芽腫症」という病気で、大学病院で大きな手術をした経験がある。入院期間が約十日

間程度で、たくさんの方々の医療従事者の方々にお世話になり、薬もたくさん使用した。退院時にはもちろん数十万円という医療費がかかった。また、その翌年には弟が「川崎病」の重症化でかなりの期間入院し、薬も使用した。その時も数十万円の医療費がかかった。一家庭では相当な負担となるが、そこで「税」の一部を使用して、経済的に助けてもらった。

「税」の仕組みは、かなり奥深いですが、私が今まで学んだ部分では、国民がお互いに助け合い、国民のそのモチベーションが上がれば上がる程、もっとたくさんの方々の人を助けてあげられる仕組みを作りあげることができるとは思いません。ただ、国民それぞれが一生懸命納めた「税」を無駄にしないよう、有効的に活用できるようにと改良していかねばならないと思った。



彼らが望むもの

所沢市立中央中学校

三年 渋谷 さち香

「勉強イヤだー」

小学校に入学してから、今日まで、何回この言葉を耳にしたのだろう。そして、何回口にしたのだろうか。

昨年度の新型ウィルス蔓延防止に伴う休校期間。スマホゲームに食いつく毎日に飽き、私は高校調べを始めた。気になる高校の制服を自分が着ている姿を想像してはニヤニヤ。正直すぎる口コミ情報には一喜一憂。そんなことをしている中、一つ、今まで全く興味のなかったことが気になりだした。その学校で学ぶためにかかるお金である。そこで更に疑問が生まれる。はて、私のこれまでの学びに一体いくらお金が使われたのだろうか。調べて驚いた。私がイヤだ、面倒だと何回も思ったその勉強のために、百数十万円という税金が使われている。そのとき、私達学生は、世間の人々に支えられ、同時に期待されているのだと気が付いた。私は「勉強する環境を与えられた身」であり、そのことに感謝していかなければならないと思った。そして、その感謝を示す方法は、謙虚な態度で大いに学ぶことなのだと、「勉強イヤだー」という周りの言葉に流されそうになる度思い出すようにした。

何気なく図書館を利用したある日、リベリア内戦の実態を収めた写真集を手にした。銃を抱えた少年、身体の一部から

大量に流血している少女……。そんな日常で、彼らが望むものとは何だろう。広く行き渡った医療、安心して眠れる場所、そして、豊かに勉強することではないだろうか。

今の日本は、これらのことが、国民の納める税金によって、それぞれ公平に現実になっている。

私は、早く大人になりたい。この国を支える一部となりたい。そのために今できること。それが謙虚な態度で大いに学ぶことである。彼らが望むものは、今の私達の生活である。その尊さをかみ締めたまま、今日も中学校で学ぶ。



消費税とは

飯能市立飯能西中学校

三年 小 松 あかり

私たちの身近にある税として思いつのが消費税です。お買い物をするときには生じ、私達が払っている消費税とはどのような存在なのか調べてみようと思いました。

日本が消費税の導入を決めたのは平成元年です。商品の販売やサービスの提供に対して3%の税金を納める消費税や所得税の減税などを含む大幅な税制の改革が行われました。後に、平成九年に5%、平成二十六年に8%、令和元年には10%まで上がっています。この数値自体は世界的にみるとそれほど高いものではありませんが、増税は私たちの暮らしにとっても負担を与えています。なぜ、消費税を上げる必要があったのかももう少し詳しく調べてみました。

増税の大きな原因として少子高齢化にあります。単純に考えて子供が減少して高齢者が増加するので、それぞれを支える現役世代の割合が年々減少していくからです。また、高齢者の人口増加による年金・医療・介護などの社会保障費用が増加し、歳出が増える一方で、社会保障料収入は横ばいで推移しているため社会保障制度が破綻していきます。

もう一つの原因として、借金の増加があげられます。保険料収入で足りない部分は税収と国債の発行でまかなっているのが現状です。ただ、大幅な経済成長が見込めない現在では、

税収自体も歳出に対して大幅に不足しています。その結果、国債発行による借金がふくれ上がる悪循環が生じます。その場しのぎの借金でどうにかしても、それは子供や孫世代への問題の先送りでしかありません。

このような状況を根本的に改善するために、消費税増税という方針が打ち出された様です。

消費税増税のメリットについていくつか紹介させてもらいます。

まず、増税することで国の税収が増え、財源がより安定することが期待されます。また、消費税は商品購入時に同時に支払うもので、基本的にごまかすことができないので、脱税防止の効果も期待できます。さらに、消費税は、お金持ちも、そうでない人でも一律で同じ税率なので、高齢者や大人、子どもまで幅広い世代から徴収することができる税金です。そのため、社会保障も充実します。

今回消費税についていろいろと調べてみて、よく理解できたことは、消費税導入の大きな目的は、今後さらに進んでいくであろう高齢化社会で増え続ける社会保障費をまかなうためであるということです。

この先、日本の消費税はどこまで上がるか分かりませんが、税を納めるという事は義務・責務でもあるので、きちんと納めていきたいです。

家の前の消防署について

所沢市立山口中学校

三年 山 村 健 人

私の家の前は、消防署である。私はいつも消防車や救急車が出動しているのを耳で聞いている。私は救急車に実際に乗ったことがある。その時も私は音でしか救急車を感じることはできなかった。救急搬送や、応急処置してもらい私の怪我は悪性にはならず、早く治り退院することもできた。私はこの日から消防署のありがたみに気付いた。

この出来事には多くの税金がかかっていることを私は後日に知りました。もしも、この世に税金というものがなかったら、私は今、このようなことを書いてはいません。救急車で救急搬送をされること、怪我の応急処置に使われた、包帯や、点滴も、大人の方々の税金からなっていることを知りました。母に、何回も言われたことがある。「今、あなたが此処にいられるのは様々な大人が出してくれている税金の御陰よ。日本に税金があつて、助けられたの」と言われた。私はこの言葉を忘れることはできない。税金がなければ、救急車や、消防車はかけつけてはこないのだから。火事が起こったとしても消防車や、救急車はかけつけてはこない。税金が消防車、救急車に使われていることで、たすかる命があることをおもいしらされた。

梅雨が過ぎ、夏本番の今の時期。そして、この夏がおわれ

ば空気が乾燥する季節である秋にはいる。夏は、今、世界問題となっている地球温暖化の影響からか、猛暑が続き、熱中症で救急搬送されることが多くなり、秋では少しの火でも空気が乾いているため、火事が多発する。その度に、救急車や消防車は、現場にかけつけている。

あの日から私は、消防署の出動要請のアナウンス、道を歩いている時に聞こえる救急車両のサイレンの音、私は、見て、聞いて、実際に乗って、そして治療をうけたことにより、日本には税が無駄な所に使われず、私たちの教科書、道路の整備、そして、救急車両に使われていることを忘れないようにしたい。そして税によって、何千、何百人と人が助けられていることも、また私もその中の一人として、税金のありがたさを忘れないようにしたいとおもう。



This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

所沢税務署管内税務連絡協議会は、次の団体で構成されています。

- ・ 商工会議所（所沢・飯能・入間）、入間市商工会
- ・ 関東信越税理士会所沢支部
- ・ 所沢税務署管内納税貯蓄組合連合会
- ・ 所沢税務署管内青色申告会連合会
- ・ 一般社団法人所沢法人会
- ・ 所沢間税会
- ・ 所沢小売酒販組合